



LIP.横浜トライアル助成金活用で製品化した

オンライン聴診教育システム“iPax アイパクス”と聴診専用スピーカ“聴くゾウ”が
欧州特許を取得しました

横浜市では、健康・医療分野のイノベーションを持続的に創出する産学官金のネットワークである「横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP.横浜）」を推進しています。

「LIP.横浜」の取組の一つである「LIP.横浜トライアル助成金」（平成 30 年度、令和元年度）を活用して開発した聴診教育システム“iPax（アイパクス）”と聴診専用スピーカ“聴くゾウ”に関し、開発企業の株式会社テレメディカ（青葉区）が、国内特許・米国特許に続き、欧州特許を取得しました。これにより、国内、米国に加えて、欧州特許加盟各国における販路拡大の加速が期待されます。

巨大な欧州市場での製品展開に大きく貢献する成果であり、横浜市としても、引き続き海外事務所とも連携し、市内企業の海外展開を支援してまいります。

<オンライン聴診教育システム“iPax アイパクス” 及び 聴診専用スピーカ“聴くゾウ”>

生体と同じ周波数のリアルな聴診音を創る音響工学技術と、聴診する部位に合わせて音が連続的に変化するテクノロジーを駆使して聴診教育クラウドシステムを開発しました。

“iPax”を使うことで、場所や時間に制限なく医療技術を学ぶことができ、搭載された AI により、学生が自分自身で効率的に学習することも可能です。さらに iPax 専用のスピーカの“聴くゾウ”を接続すると、脈を取りながら、自分の聴診器を使って聴診技術を研鑽することができます。

“iPax”は、(公財)日本医療機能評価機構が取り組む厚労科研事業（医師国家試験へのコンピュータ制の導入検討）にも活用されており、教育のオンライン化、情報のデジタル化の中、世界の医学教育の発展に貢献することが期待できます。

本システムは、国内聴診教育、医学教育の第一人者である（公社）臨床心臓病学教育研究会 理事長 高階 経和 医師、杏林大学呼吸器内科 准教授 皿谷 健 医師、日本大学医学部医学教育センター 教授 日台 智明 医師の監修を受けて開発しています。



画面上のチェストピースを操作
リアルな音で聴診を学ぶ

<株式会社テレメディカ> HP <http://telemedica.co.jp/>

ICT や AI を活用した医学教育事業を行っています。

これまで、心臓や肺の異常音を忠実に再現する音源開発や聴診器をあてて聴く聴診専用スピーカを開発し、医療系大学の教育や試験に活用されています。また、海外の大学とも提携して医学教育の発展に寄与しています。

(※) “iPax”の拡張機能である「聴診部位記録機能」についても国内で特許申請中です。

LIP.横浜トライアル助成金

健康・医療分野において、新製品や新技術の事業化を目指す市内スタートアップ・中小企業、大学、研究機関等を対象として、研究成果やアイデア等を具体化する試作品の開発などに活用できる最大 200 万円（令和 5 年度実績）を上限とする助成金です。

（※）本助成金は、（公財）木原記念横浜生命科学振興財団が横浜市経済局の補助金を受けて運営する事業です。

オープンイノベーションの推進

横浜市は、「ヨコハマ・クロスオーバー（YOXO）」を旗印として、オープンイノベーションを推進するプラットフォーム「I・TOP 横浜」による AI・IoT 等の先端技術を活用した新たなビジネスの創出や、「LIP. 横浜」による健康・医療分野に関する新製品・新技術の開発を促進しています。

さらに、2つのプラットフォームの共通分野であるデジタルヘルスケア分野において、革新的な技術や研究成果をビジネス化するための支援をしています。

「I・TOP 横浜」と「LIP. 横浜」の2つのプラットフォームを相互に連携させることで、市内に集積する多様な企業や大学、研究機関等の組織や領域を超えたオープンイノベーションを推進し、AI・IoT 等及び健康・医療分野での新事業の創出等を目指しています。



お問合せ先

（LIP. 横浜に関すること）	経済局産業連携推進課長	岩船 広	TEL：045-671-2574
（助成事業に関すること）	公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団事務局長	広瀬 貴生	TEL：045-502-4810
（製品に関すること）	株式会社テレメディカ代表取締役	藤木 清志	TEL：045-532-4613